



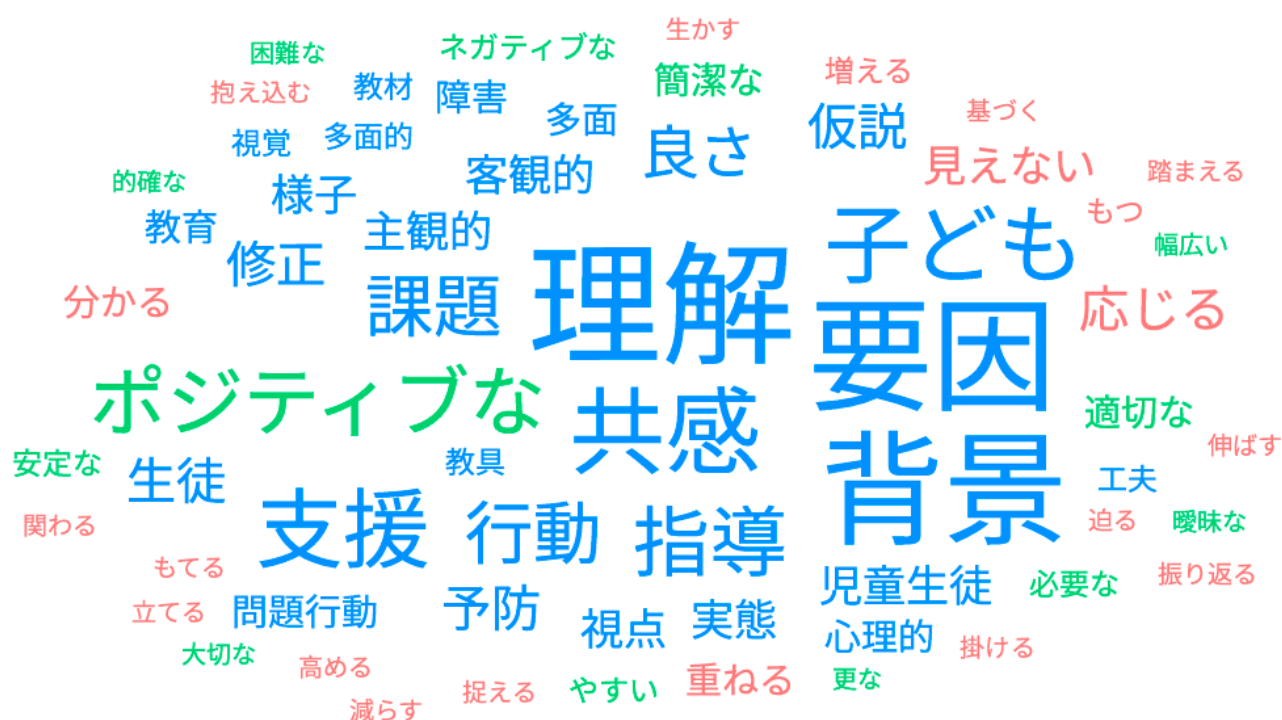
2025年8月20日（水）
余市養護学校しりべし学園分校
文責：研究部 金子
第2号

今回は、5月6月の研究日に行われた校内研究についてまとめました。

○5月研究日 特別支援教育の基本オンデマンド研修

5月21日の研究日には、4つのグループに分かれて特別支援教育基本セミナーのオンデマンド研修動画「特別な教育的支援を必要とする幼児生徒の指導のポイント」を視聴しました。また、動画視聴しながら、重要だと思ったワードや感じたことをタブレット端末の canva の付箋に記し、ホワイトボード上で共有しました。研修後は、Google フォームを使用したリフレクションを行い、視聴した内容を振り返りました。

各グループのホワイトボードに貼られた付箋のデータを基にテキストマイニングを行った所、以下の図から見るように「背景 要因、理解、子ども、共感、ポジティブな、支援」という言葉が多くありました。中央に「理解」という言葉がありますが、児童生徒への様々な視点からの理解が、指導内容を考える際の根幹となるため、その理解を適切に行うために「的確な実態把握」が重要になると再認識できました。



○6月研究日 自立活動について

6月25日の研究日は自立活動についての共通理解を図り、基本的な考え方について学ぶため、北海道立特別支援教育センターのホームページにある特センライブラリより、「自立活動の指導の基本について」と「自立活動の個別の指導計画について」の2本の動画を、5月の研修と同様に4グループに分かれて視聴しました。

また、動画の内容を受けて、普段の指導を見つめ直して、反省点や悩みなどを各グループ内で共有し意見交流を行いました。

学部ごとの取り組みの例

高等部：進路に向けた見通しを持たせる指導、自己課題の振り返り。

中学部：手指の巧緻性や自己理解につながる土台づくり。

小学部：粗大→微細運動の繰り返し、体作りが中心。専門家の知識が求められている。

意見交流で出た意見まとめ～自立活動における悩み～

- ・児童生徒の自立活動における目標、妥当性を学部・学校全体で共有していくことが大切であるが、教師の主観に頼っている場面が多く、他教員と活動内容を共有する機会、時間が足りない。
- ・日常の流れに合わせて実施し、絵カードによる伝達など日常的な習慣化を目指す。
- ・あらゆる場面で自立活動の視点が必要であるが、生徒が希望しない活動には乗ってこないことがある。
- ・実態把握や障害特性を理解し、生徒の長所・短所だけでなく、学習の広がりや考慮した上で目標を設定する。
- ・また、「氷山の一角」のように見えない部分も扱うべきであり、成果が不十分な際は見直しや手立ての再考が必要である。

自立活動は、時間における指導と、学校の教育活動全体を通じて行う指導であり、各教科等の学習を積み上げていく為の基盤となる学習であり、先月の研修でもあげられた「適切な実態把握」が重要であることを再確認するとともに、より一層の情報共有や共通理解のもと指導に当たることが求められます。

書籍紹介



校内で回覧した書籍です。
愛着障害の本は現在回覧中です。
先生方から「ためになる!」、「自分で購入したい!」との声が出る程、好評の書籍です。
回覧後は研究部の棚に置くので、是非ご自由にご覧ください。